

2021年度 自己点検・評価シート

基準7	学生支援
-----	------

- *各組織における新たな目標または、「2020年度時点の問題点(課題)」の改善に向けた目標を設定してください。
*2020年度の取り組みに対して内部質保証委員会の「所見」が付されている場合には、その改善に向けた目標を設定してください。

項目 (●:点検・評価項目 ○:評価の視点)	①現状説明、②長所・特色、③問題点 (2021年度期首時点)	①2021年度以降の達成目標(*) ②達成度を測るための客観的な指標	①2021年度の取り組みとその成果 ②2021年度の取り組み後の問題点(課題)	自己 評価	根拠 資料	内部質保証 委員会所見 (改善・向上への 取り組み)
<p>・・・○ま● 協進学学学 力路生の生 団選のの学 体択キ→生支 にヤ進支に 関り路援関 業ア→はす 支援関切大 団支援関切大 体援をすに学 等)や行る行と がう支わし といた援れて のだめての 連のい方 携ス体る針 の制かに 実の基 施づ 備き、 学学生 支支 援援 のの 体体 制制 はは 整整 備備 され て い る か 。</p>	<p>○学生の「進路」に関する支援 [現状説明] 1.学生のキャリア支援を行うための体制の整備 (1)スタッフの体制 2021年度は専任職員9名、通年の常勤カウンセラー4名、繁忙期カウンセラー3名、その他の支援カウンセラー(チャレンジ講座5名、2年生全員面談1名、3年生全員面談1名)7名、企業調査1名、受付2名、インターンシップ支援補助1名をキャリアセンターに配置し、全27名の学生支援体制を整えている。また、専任職員のキャリアコンサルタント資格取得に力を入れ、2021年度4月1日現在の体制は専任職員9名中有資格者5名、研修予定1名となっている。 (2)感染防止を考慮した支援の検討・実施 新型コロナウイルス感染症の感染状況や、大学の授業形態等を踏まえ、オンラインツールを活用した支援行事を実施する。また、多くの学生の参加が見込まれる行事については、複数会場や対面・オンライン併用にて実施し、できるだけ密集を避ける。 WEB面談は継続して実施する。 (3)レイアウト変更 新型コロナウイルス感染症防止対策としてキャリアセンターに閉閉式窓を追加する工事を実施し、また一定のスペースを確保した対面面談ブースを増設する。 2.進路選択に関わる支援やガイダンスの実施 (1)低年次からの意識づけ ①1年生に対する取り組み 1年生全員面談(キャリアガイダンス)を通じて、充実した学生生活が就職活動においても大切であることを伝え、学生自身に行動計画を考えさせた上で大学生活における目標を設定させる。 ②2年生に対する取り組み 2年生全員面談では、動画配信を通じて2年生での学生生活の重要性を伝え、その後、カウンセラー1名につき最大4名の学生でグループ面談を実施する。1年生全員面談で各自が設定した目標の進捗確認と新たな目標の再設定を行う。 ③3年生に対する取り組み 3年生全員面談において、就職活動の具体的なスケジュール確認やアクションプランの作成・確認を、キャリアセンタースタッフと共に進行。全員面談の実施方法については、対面授業の実施状況を踏まえ検討していく。 その他就職ガイダンス、就職面接セミナー、業界セミナー、企業研究セミナーなど、効果的な実施方法(対面・オンライン)を検討した上で実施する。 ④インターンシップ支援 インターンシップ授業の支援と、自主的に参加する学生の支援(インターンシップ説明会、履歴書・エントリーシート対策講座、マナー講座等)を実施する。 (2)4年生支援 ①合同企業説明会 4年生を対象とした学内合同企業説明会を、4月から卒業間近の3月まで(8月を除き)毎月実施する。 ②電話かけ 就職活動状況を把握、就職活動中の4年生には個別面談利用や就職支援イベントへの参加を促すため、電話かけを実施する。 ③その他 企業研究・志望動機ポイント講座、グループディスカッション講座、面接練習会、WEB面接対策セミナー、事務職セミナー、就活何でも相談会など、4年生を対象とした講座やセミナーを学生の現状を踏まえた上で実施する。 3.協力団体(卒業生団体等)との連携 全国55の葵友会支部に、卒業生による学生就職支援を行うための「就職協力委員」を配置している。 「葵マスコミ会」「葵流通会」「葵金融会」「税理士葵会」「大倉公認会計士会」という5つの卒業生団体により、各業界を目指す学生を支援する体制ができている。</p> <p>[長所・特色] 1.個別支援体制の充実 キャリアセンターでは、特に学生一人ひとりへの「個別対応」に重点を置いている。 2020年度の個別相談件数は10,322件、電話かけの件数は8,190件となっている。電話かけにより個別相談や就職支援イベントへの参加を促す事で、10月以降も311名の内定者を出すことができた。こうした個別対応を可能としている要因として、上述したスタッフ体制の充実があげられる。 2.低学年からの意識付け 上述の通り1年生の履修必修科目である1年次ゼミを利用して、新入生全員にキャリアガイダンスを行い、就職に向けての意識付けを行っている他、2年生及び3年生との全員面談において、更なる意識向上を図っている。 低年次からキャリアセンタースタッフと交流を図ることで、キャリアセンター利用の心理的ハードルを下げることに繋げる。 3.在学生ご父母を通じての学生支援 例年実施していた「父母の会支部懇談会」は多くが中止となる予定だが、その代わりに動画配信にてご父母向けに情報発信を行う。その他、年間3回発行される会報「父母の会ニュース」や、東京経済大学ガイドブックを通じてご父母の方に情報提供を行う。「親子で参加する就職ガイダンス」については、2020年度は動画配信にて情報提供を行い、その後電話にて相談に応じた。 4.豊富な就職支援行事 2020年度「WEB面接対策ガイダンス」や「就活何でも相談会」など新たな支援を含め、年間322コマの就職支援行事を実施した。</p>	<p>[2021年度以降の達成目標] 1.個別面談、電話かけ ・キャリアセンタースタッフ全員で個別面談、電話かけを行い、一人ひとりの学生へ丁寧かつ親身な支援を行う。 ・面談件数が前年度の実績を上回ることを目標とする。 2.各種支援行事 ・これまでの経験、振り返りを踏まえ効果的な内容・実施方法を検討し実施していく。 ・就職支援行事への参加者が増えるよう最適な実施方法・告知方法を検討し実施する。 特に3年生の早めの動き出しを促すため、3年生対象の支援行事の参加者増・個別面談の利用者増を目標とする。</p> <p>[達成度を測るための客観的な指標] ＜2020年度の面談件数＞ ・個別面談：10,332件</p>	<p>＜2021年度の取り組みとその成果＞ [現状説明] 1.学生のキャリア支援を行うための体制の整備 (1)スタッフの体制 常勤17名、非常勤10名を配置し、全27名の支援体制を整えた。【資料1】 キャリアカウンセラー資格を持った職員が1名6月に異動になったが、昨年度キャリアカウンセラー講座に派遣した職員が資格を取得し、2022年1月末現在専任職員8名中5名が有資格者となった。なお、今年度もキャリアカウンセラー講座に1名派遣した。【資料2】 (2)感染防止を考慮した支援の検討・実施 個別面談については、年間を通じて対面とオンラインを併用し、学生の希望に沿った面談方法で実施した。4月から1月末までの間に10,621件の面談を実施した(昨年度4月から1月末までの面談件数7,777件)。【資料3】 支援行事については、大学の授業実施形態に合わせ、遠隔授業期間は原則オンラインで、対面授業期間は対面とオンラインを併用して実施した。大勢の学生が参加する就職ガイダンスについては、対面での実施も検討したが、学生に実施したアンケートで9割がオンラインでの開催を希望したことから、結果として全てオンライン開催となった。【資料4】 (3)レイアウト変更 対面面談希望の増加を見据え、一定のスペースを確保した上で安心して面談が行えるようブースの追加と大幅なレイアウトの変更を行った。学生の面談方法の希望に柔軟に対応するため、すべてのブースが対面/オンライン面談のどちらにも対応可能な形となっている。【資料5】 2.進路選択に関わる支援やガイダンスの実施 (1)低年次からの意識づけ ①1年生に対する取り組み 1年次キャリアガイダンスは、遠隔授業期間中は動画配信で、対面授業期間中は対面授業に出向き実施した(1,362名)。【資料6】 ②2年生に対する取り組み 2年生全員面談は、動画配信+WEB面談(カウンセラー1名に対し学生最大4名)という方法で実施した(動画視聴：1,277名、WEB面談1,134名)。【資料6】【資料7】 ③3年生に対する取り組み 3年生全員面談は、動画配信+ペア面談(カウンセラー1名に対し学生最大2名)という方法で実施した【資料6】【資料8】 (動画視聴：1,138名、ペア面談958名)。ペア面談は、遠隔授業期間中はオンラインで、対面授業期間中は対面で実施した。3年生向けの就活チャレンジ講座(全14回の就活準備プログラム)には、212名の申し込みがあった(昨年度157名)。2コース制、6クラスを用意して申込者全員を受け入れ、対面、オンラインを併用して全14回実施した。【資料9】 その他、就職ガイダンス、業界・企業セミナー、企業研究セミナー、就職面接セミナーについては全てオンラインで開催した。全6回の就職ガイダンスの参加人数は、昨年度と比較して大幅に増加した(第1回：1,105名、第2回：1,074名、第3回：965名、第4回：775名、第5回：662名(昨年度 第1回：673名、第2回：521名、第3回：471名、第4回：315名、第5回：382名))。原則リアルタイム開催のみに限定し、TKUポータル・メール・ハガキといった従来の告知方法の頻度を増やすことで、オンデマンド配信形式の昨年度の視聴者数を大きく上回った。【資料6】 就職ガイダンスや3年生全員面談等で、早めに動き出すことの重要性を伝えた結果、3年生の4月～12月の個別面談件数は1,685名となり、昨年の4月～12月1,315名より増加した。【資料10】 ④インターンシップ支援 インターンシップが就職活動のスタートとして位置づけられてきている現状を踏まえ、夏のインターンシップへの参加を促す支援を強化して実施した。従来から実施してきたインターンシップ説明会、マナー講座、履歴書・エントリーシート対策講座、マッチング会に加えて、インターンシップ向けのエントリーシート書き方講座(動画配信)、WEB面接対策ガイダンス、インターン&就活なんでも相談会を新たに実施した。【資料11】 (2)4年生支援 ①合同企業説明会 4年生向けの合同企業説明会を4月からオンラインで毎月開催し、8月を除き卒業間近の3月まで開催する予定である。4月から1月までの間で14回開催し、のべ708名の学生が参加した。【資料12】 ②電話かけ 主に内定報告のない4年生向けに電話かけを行い、個別面談、合同企業説明会・4年生フォローガイダンス等の利用・参加を促した(4月～1月末8,730件)。【資料13】 ③その他 4年生フォローガイダンス(面接練習会、志望動機作成ポイント講座、事務・管理部門の仕事セミナー、求人票の探し方・見方講座、就活なんでも相談会)を定期的に開催した。9月には、フォローガイダンスを2日間であとめて実施する就活集中講座を新たに開催し30名に学生が参加した。【資料14】 4年生専属のカウンセラーを配置し、10月からは4年生専用の面談枠を設け、就職活動を継続している4年生の個別面談予約が取りやすい環境を整えた。【資料15】 求人情報の提供について、従来のTKUキャリアナビだけでなく、八王子新卒応援ハローワークから提供を受けた求人情報について、今年度から定期的にTKUポータルにて情報を配信した。また、10月に1,570社向けに実施したアンケートをもとに、採用継続情報をTKUポータルにて配信した(106社)。【資料16】 3.協力団体(卒業生団体等)との連携 全国55の葵友会支部に配置している「就職協力委員(卒業生)」が参加する就職協力会議は、新型コロナウイルスの影響により対面による開催はせず、資料を送付し情報共有を行った。【資料17】 「葵マスコミ会」「葵流通会」「葵金融会」では、対面による卒業生と学生との懇談会は開催せず、代わりにオンラインを利用した懇談会・相談会を開催した。葵マスコミ会57名、葵流通会50名、葵金融会7月(セミナー):29名・11月(相談会):59名・12月(相談会):31名の学生が参加した。【資料18】 「税理士葵会」「大倉公認会計士会」は、新型コロナウイルスの影響により、支援行事は開催されなかった。</p>	A	<p>○ コロナ禍においても状況に即した支援を行っていますと評価できます。引き続き改善・向上に努めてください。</p> <p>左記資料番号をご参照ください</p>	

2021年度 自己点検・評価シート

基準7	学生支援
-----	------

*各組織における新たな目標または、「2020年度時点の問題点(課題)」の改善に向けた目標を設定してください。
*2020年度の取り組みに対して内部質保証委員会の「所見」が付されている場合には、その改善に向けた目標を設定してください。

項目 (●:点検・評価項目 ○:評価の視点)	①現状説明、②長所・特色、③問題点 (2021年度期首時点)	①2021年度以降の達成目標(*) ②達成度を測るための客観的な指標	①2021年度の取り組みとその成果 ②2021年度の取り組み後の問題点(課題)	自己 評価	根拠 資料	内部質保証 委員会所見 (改善・向上への 取り組み)
⑭	<p>【問題点】</p> <p>1.2020年度から引き継いだ課題</p> <p>(1)感染防止対策を取りつつ、対面談実施に向けた体制作り(キャリアセンターの面談ブースレイアウト変更や、予約受付体制など)。 (2)コロナ禍における支援内容・開催方法の検討・実施。 (3)就職支援行事への参加を促す取り組み。</p> <p>2.2021年度事業計画において取り上げている項目</p> <p>(1)多様な学生ニーズへの対応 (2)低年次からの支援 (3)コロナ禍における採用活動の変化への対応 (4)コロナ禍における企業との連携方法の検討</p> <p>3.内部質保証委員会所見(助言) 助言等は特にありません。引き続き改善・向上に努めてください。今後は対面とオンラインの共存対応が求められますが、それぞれのメリットを活かした学生満足度の高い就職支援活動を展開してください。</p>		<p>【問題点】</p> <p>1. 2020年度から引き継いだ課題</p> <p>(1)感染防止対策を取りつつ、対面談実施に向けた体制作り 面談予約において、当初は面談方法(対面・WEB)を指定して対面談数を制限して実施していたが、6月のキャリアセンターレイアウト変更後は学生が面談方法を選択できる方式に変えた。【資料19】</p> <p>(2)コロナ禍における支援内容・開催方法の検討・実施 基本的には大学の授業実施形態に合わせ、遠隔授業期間は原則オンラインで、対面授業期間は対面とオンラインを併用して実施した。オンラインで実施する場合でも、効果・参加しやすさを考慮し、行事によってZoomミーティング(参加学生の顔が映る)、Zoomウェビナー(講演者のみ顔が映る)を使い分けて実施した。</p> <p>(3)就職支援行事への参加を促す取り組み 動画配信のみの支援行事は、視聴数が伸び悩む傾向であったため、オンラインで実施する支援行事のほとんどをライブ配信にて実施した。行事の告知について、掲示、TKUポータル、メール、ハガキ、電話かけ等による参加勧奨の他、教員向けには学内グループウェアや各学部・センター教授会で支援行事の情報提供を継続して行った。今年度は、定期的に3年生向けにメールを配信したり、ハガキによる案内も5回に増やした(昨年度3回)。【資料20】</p> <p>2. 2021年度事業計画において取り上げている項目</p> <p>(1)多様な学生ニーズへの対応 学生の希望に沿った面談方法で実施できるよう体制を整え、実施した。 就職ガイダンスの実施方法(対面・オンライン・併用)について、学生にアンケートを実施し、オンライン開催の希望が9割だったので、全てオンラインで開催した。【資料4】</p> <p>(2)低年次からの支援 上記【現状説明】2-(1)低年次からの意識づけ 参照</p> <p>(3)コロナ禍における採用活動の変化への対応 インターンシップが就職活動のスタートとして位置づけられてきている現状を踏まえ、主に3年生向けに夏のインターンシップへの参加を促す支援を強化して実施した。【資料11】 採用選考が、対面とオンラインで行われている現状を踏まえ、個別面談の模擬面接や面接練習会等、対面・オンラインの両方の対策ができるよう体制を整えた。【資料21】</p> <p>(4)コロナ禍における企業との連携方法の検討</p> <p>①コロナ禍で企業への訪問が難しい状況においても企業との関係を維持するため、電話やWEBにより情報交換を継続して実施した。(4月~1月末496件)。11月より企業訪問を再開し、11月~1月で78件の企業訪問を行った。【資料22】</p> <p>②10月に企業向けにアンケート調査1,570件を実施し、今年度採用活動継続、次年度の採用予定、インターンシップの情報等について回答をもらった。今年度採用継続の情報については、一覧にして学生に公開し、4年生向けの合同企業説明会参加依頼にも活用した。【資料16】</p> <p>③企業と大学との懇談会について、新型コロナウイルスの感染状況や他大学の状況等を踏まえ、2021年度・2022年度の開催の中止を決定した。懇談会中止により、企業と教員との接点が減ることから、合同企業説明会に参加している企業との接点を希望する教員がいた場合、キャリアセンターが間に入り面談の調整を行うことにした。【資料23】</p> <p>3. 内部質保証委員会所見(助言) 2020年度、助言等は特になかった。</p> <p><2021年度の取り組み後の問題点(課題)></p> <ul style="list-style-type: none"> 企業の採用活動の早期化への対応を考慮し、次年度の支援行事の開催時期を検討する。 インターンシップに向け、目的意識を持って自ら実習先を探す力を身に付け、インターンシップの選考試験にも対応できるような支援を検討し実施する。 筆記試験対策準備を早期に多くの学生に取り組みさせるための仕組みを検討し実施する。 			
⑰	<p>【現状説明】</p> <p>1.「学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか」について</p> <p>(1)就職状況についての定期的な検証 就職委員会を中心に定期的な検証を行っている。併せて、以下の会議体等で就職状況報告と共に教職員より意見等を聴取し、改善・向上に向けた取り組みを行っている。</p> <p>①各学部・センター教授会 ②理事会 ③評議員会 ④常務理事会 ⑤学生支援会議 ⑥事務局会議 ⑦インターンシップ推進委員会 ⑧奨励会 幹事会 ⑨奨励会 幹事会 ⑩キャリアセンターミーティング ⑪企業調査ミーティング 等</p> <p>(2)2020年度の就職状況報告 2021年3月卒業生の就職希望者就職率(就職希望者のみを分母とした就職率、就職希望者就職率=就職決定者数/(進路判明者数-就職を希望しない者の数))は92.8%で、前年度(96.7%)より3.9ポイントのマイナスとなった。 また、卒業生就職率(卒業生全員を分母とした就職率)は83.9%で、前年度(87.4%)比3.5ポイントのマイナスとなった。</p> <p>【長所・特色】 就職委員会の構成員には、学内教職員だけでなく、学外より2名の有識者(本学卒業生団体「奨友会」役員)を置き、意見等をいただいている。</p> <p>【問題点】</p> <p>1. 2020年度から引き継いだ課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 2022年3月卒業生の大学求人倍率は、1.50倍と前年の1.53倍より0.03ポイント微減した。先行きが不透明な社会的状況であり、採用動向の情報収集等、企業との連携を継続していく。 支援の種類・内容・実施方法については主にキャリアセンターで検討することになるが、就職委員会で実施結果や今後の支援予定について報告し検証していく。 <p>2. 内部質保証委員会所見(助言) 助言等は特にありません。引き続き改善・向上に努めてください。</p>	<p>【2021年度以降の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各会議体に就職状況や支援行事を必要に応じて報告し、定期的な検証を行う。 就職希望者就職率、卒業生就職率とも、前年度と同レベルまたはそれ以上を目指す。 <p>【達成度を測るための客観的な指標】</p> <p><2021年3月卒業生就職率> 就職希望者就職率:92.8% 卒業生就職率:83.9%</p>	<p><2021年度の取り組みとその成果></p> <p>【現状説明】</p> <p>1. 学生支援の適切性について</p> <p>(1)就職状況についての定期的な検証 就職状況については、就職委員会で随時報告・検証を行い、各学部・センター教授会、理事会、事務局会議等でも定期的に中間報告を行っている。</p> <p>(2)2021年度の就職状況報告(2022年1月末現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> 2022年3月卒業生の卒業生就職率(卒業生数(予想)を分母とした就職率)は85.0%で、前年同時期(83.8%)比1.2ポイントの増となった。 また、就職希望者就職率(就職希望者のみを分母とした就職率、就職希望者=内定者/(進路判明者-就職を希望しない者))は、80.9%で、前年度(79.6%)より1.3ポイントの増となった。【資料3】 <p>【問題点】</p> <p>1. 2020年度から引き継いだ課題</p> <p>(1)採用動向の情報収集、企業との連携について コロナの影響により、4月から10月までの企業訪問ができない間は架電やオンラインツールを活用し意見交換・情報収集を行い、11月以降は企業訪問を再開した。 企業の採用動向等の情報を収集するため、10月に1,570社の企業向けにアンケート調査を行った。 アンケートや架電・訪問等によって得た採用継続の情報をもとに、学生向けに採用継続企業を一覧にして提供し、企業向けには合同企業説明会への参加案内に活用した。 就職情報サイトからの情報や各種研究会等で得た情報はキャリアセンター内で共有し、支援検討の際に活用した。【資料24】</p> <p>(2)支援の種類・内容・実施方法について 支援行事について、内容・実施方法をキャリアセンターで検討し、実施状況・参加実績については一覧にして随時就職委員会で報告し、意見交換を行った。【資料25】</p> <p>2. 内部質保証委員会からの所見(助言)について 2020年度、助言等は特になかった。</p> <p><2021年度の取り組み後の問題点(課題)></p> <p>「企業と大学との懇談会」は2022年度も開催しないことになるが、企業訪問や企業向けアンケートの実施により、企業との関係を維持しながら情報収集を継続し、学生に還元していく。</p>	A	左記資料番号を参照ください。	○コロナ禍においても学生満足度の高い就職支援活動を展開してください。

2021年度 自己点検・評価シート

基準11 教学ビジョン「10年後を見据えた新構想」

* 各組織における新たな目標または、「2020年度時点の問題点（課題）」の改善に向けた目標を設定してください。
* 2020年度の取り組みに対して内部質保証委員会の「所見」が付されている場合には、その改善に向けた目標を設定してください。

項目 (●:点検・評価項目 ○:評価の視点)	①現状説明、②長所・特色、③問題点 (2021年度期首時点)	①2021年度以降の達成目標(*) ②達成度を測るための客観的な指標	①2021年度の取り組みとその成果 ②2021年度の取り組み後の問題点(課題)	自己評価	根拠資料	内部質保証委員会所見 (改善・向上への取り組み)
<p>●第2次中期計画 ○分野別中期計画で掲げられている 1. 教学-(4)学生支援に対する取り組みが適切に行われているか。</p>	<p>[現状説明] ○分野別中期計画で掲げられている取り組みが適切に行われているか。 1. 社会環境の変化に左右されない根源的な力を養うために、低年次からのかかわりを通して職業観を育成し、働くことへの意欲を高める。 (1)全員面談 ・1年～3年生全員面談を通して、自己理解と職業理解の重要性を伝え、学生の主体的な行動を促していく。 (2)業界・企業・仕事を知る機会の提供 ①企業担当者によるセミナーの開催 ・低年次から参加できる業界セミナーや企業研究セミナーを開催する。 ②インターンシップ ・インターンシップへの参加を促す支援や、インターンシップ参加を希望する学生をサポートする支援を実施する。 ③業界別卒業生団体による支援 ・業界別卒業生団体の協力を得て、卒業生と在學生との懇談会や相談会等を開催する。 2. これまで築いてきた企業との関係を維持しつつ、さらに産業構造の変化にも対応した新たな企業との関係を構築する。 (1)企業調査 ・新型コロナウイルス感染症の感染状況にもよるが、企業への訪問、電話・オンラインツールによる情報交換を通して、インターンシップ情報や採用・求人情報を収集し、学生に還元していく。 ・今まで接点が少なかった企業にもアプローチし、関係構築に努める。 (2)企業へのアンケート調査 ・企業向けにアンケート調査を実施する予定である。アンケート結果を合同企業説明会への参加や、学生の採用につなげていく。 [長所・特色] 1. 全員面談 ・1年生の履修必修科目である1年次ゼミを利用して、新入生全員にキャリアガイダンスを行い、就職に向けての意識付けを行っている他、2年生及び3年生との全員面談において、更なる意識向上を図っている。 2. 企業担当者によるセミナー、合同企業説明会の開催 ・前年の企業研究セミナー、合同企業説明会はのべ281社をお招きし、のべ2,486名の学生が参加した。 3. インターンシップ ・各学部にて授業として「インターンシップ」科目が開講され、単位認定をしている。 ・正課外のキャリアセンター独自のインターンシップへの送り出し、支援を行っている。 4. 企業調査 ・企業訪問ができなかった2020年度においても、架電やZoomを利用し情報交換を行った。 [問題点] 1. 2020年度から引き継いだ課題 ・コロナ禍で、漠然とした不安感を持つ学生や、期待していた学生生活を送れていない学生に配慮した支援内容の検討 ・インターンシップが採用活動にも利用されている現状を踏まえ、大学を経由しないインターンシップについても参加する学生が増えるための支援の検討 ・新たな企業との関係構築につながる取り組みの検討 2. 内部質保証委員会所見(助言) 今後は第2次中期計画および事業計画に基づきPDCAを回してください。</p>	<p>[2021年度以降の達成目標] ・低年次から参加できる様々な支援行事を実施することで、学生の自己理解、職業理解につなげていく。 ・インターンシップへの参加を希望する学生に対する必要な支援を検討し、実施する。 ・企業調査について、これまで築いてきた企業との関係を維持しつつ、新たな企業との関係構築について検討し、アプローチしていく。</p>	<p><2021年度の取り組みとその成果> [現状説明] 1. 社会環境の変化に左右されない根源的な力を養うために、低年次からのかかわりを通して職業観を育成し、働くことへの意欲を高める。 (1)全員面談 1年次全員面談(キャリアガイダンス):1,362名が参加(7/1時点1年生在學生比、86.4%が参加)【資料6】 2年生全員面談(動画配信+WEB面談):1,277名が動画視聴、1,134名がWEB面談参加【資料6、7】 (7/1時点2年生在學生比、80.3%が動画視聴、71.3%が面談参加)。 3年生全員面談(動画配信+ベア面談):1,138名が動画視聴、958名がベア面談参加【資料6、8】 (12/1時点3年生在學生比、74.1%が動画視聴、62.4%が面談参加)。 (2)業界・企業・仕事を知る機会の提供 ①企業担当者によるセミナーの開催 11月～12月にかけて、WEB業界・企業セミナーを開催し、のべ1,437名の学生が参加した(参加企業数:29社 ※昨年度20社)。また、当日のセミナーの録画配信の許可が得られた企業と、配信のみ参加の3社を加え、アーカイブ配信を行い約520名が視聴した。2月には企業研究セミナーを開催する予定である。【資料6、26】 ②インターンシップ 夏のインターンシップ参加を促す支援について、従来から実施してきたインターンシップ説明会、マナー講座、履歴書・エントリーシート対策講座、マッチング会に加えて、インターンシップ向けのエントリーシート書き方講座(動画配信)、WEB面接対策ガイダンス、インターン&就活なんでも相談会を新たに実施した。【資料11】 ③業界別卒業生団体による支援 WEBを利用した懇談会・相談会を開催した(葵マスコミ会57名、葵流通会50名、葵金融会7月(セミナー):29名、11月(相談会):59名、12月(相談会):31名)【資料18】 2. これまで築いてきた企業との関係を維持しつつ、さらに産業構造の変化にも対応した新たな企業との関係を構築する。 (1)企業調査 コロナ禍で企業への訪問が難しい状況においても電話やオンラインツールを活用し、情報交換を継続して実施した(4月～1月末496件)。11月より企業訪問を再開し、11月～1月で78件の企業訪問を行った。これまで企業訪問してきた企業との継続的な情報交換に加え、これまで企業訪問できていない新規の企業とも情報交換を行った(4月～1月末新規92件)【資料22】 (2)企業へのアンケート調査 10月に企業向けにアンケート調査を実施し、今年度採用活動継続、次年度の採用予定、インターンシップの情報等について回答してもらった。今年度採用継続の情報については、一覧にして学生に公開したり、4年生向けの合同企業説明会参加案内にも活用した。【資料16】 [問題点] 1. 2020年度から引き継いだ課題 (1)コロナ禍で、漠然とした不安感を持つ学生や、期待していた学生生活を送れていない学生に配慮した支援内容の検討 ガイダンスや全員面談の中で、コロナ禍の状況下においても、できることを見つけて行動していくことの重要性を伝えた。キャリアセンタースタッフが学生からの質問に答える「シューカツなんでも相談会」や、内定者を招いての「内定者に聞こう!シューカツなんでも相談会」を複数回開催した。【資料27】 特に入学当初からコロナの影響を受けた2年生に対して、2年生全員面談に予約がない学生を対象に、キャリアセンターから電話をかけて全員面談への参加を促した。 (2)インターンシップが採用活動にも利用されている現状を踏まえ、大学を経由しないインターンシップについても参加する学生が増えるための支援の検討 上記[現状説明]1-(2)-②インターンシップ 参照 (3)新たな企業との関係構築につながる取り組みの検討 11月～12月実施のWEB業界・企業セミナーでは、新規に26社の企業に参加の案内を送付し、5社の企業が新たにセミナーに参加した。 企業研究セミナー・合同企業説明会への参加案内について、継続的に参加している企業だけでなく、採用実績のある企業や、企業アンケートに回答があった企業、就職情報サイトで新卒採用を継続している企業など、新規に39社の企業にアプローチし、15社の企業が新たに参加した。 2. 内部質保証委員会からの所見(助言) 「今後は、第2次中期計画および事業計画に基づきPDCAを回してください。」 今後は第2次中期計画および事業計画に基づきPDCAを回していく。</p>	<p>A</p>	<p>左記資料番号をご参照ください</p>	<p>○引き続き、第2次中期計画の実現に向けて、部署目標や事業計画と密接に連携させながら取り組みを行ってください。</p>